

第2期阿南市子ども・子育て支援事業計画（案）に対する
パブリックコメント実施結果

No	ご意見（要旨）	市の考え方
1	<p>学年・学級費等の無償化について</p> <p>阿南市の少子化は予想よりも早く進んでいる。そのような中、現市長が掲げる「給食費の無償化」「保育料完全無償化」は非常に有効な対策である。</p> <p>近年では、収入の不安から第一子でも望むことをためらう意見もあることから、さらに段階的に効果を見極めながら「学年・学級費等の無償化」も必要だと考えます。</p>	<p>昨年10月から幼児教育・保育の無償化が実施され、現在、阿南市では3歳児から5歳児の保育料及び副食費を無料としています。</p> <p>学年・学級費については、幼稚園・保育所では保護者会費・絵本代・自由画帳などの用品代・遠足の費用などを、小中学校においても学級費・教材費等を保護者に負担していただいています。</p> <p>現在、本市においては0歳児から2歳児の保育料無償化の実施に向けて検討を行っているところであり、学年・学級費等の無償化については、今後、段階的にその是非も含め協議を行っていきます。</p>
2	<p>ひとり親の養育費の立替について</p> <p>現在、ひとり親の子どもの養育費が支払われているのは約25%であり、子どもの貧困についても社会問題となっている。</p> <p>子どもの貧困を断つためには、養育費の支払いについて市が介入し、調整等を行う必要に迫られていると思います。チームを編成し、問題の解決に早急に取り組むべきだと考えます。</p>	<p>養育費の立替については、国が立て替える制度の創設に向け有識者で構成する勉強会を設置する方針を固め、関連法の改正や法整備の検討をする意向が示されました。</p> <p>今後、国や県、他の自治体の動向を注視していきたいと考えます。</p>
3	<p>利用者支援事業について</p> <p>基本型・特定型を実施しているとあるが、利用者支援専門員の存在があまり知られていない。また、こども課の窓口では、わかりにくいと感じる。</p>	<p>利用者支援事業として、こども課窓口において、子育て家庭等から保育サービスに関する相談に応じたり、保育所や各種の保育サービスに関する情報提供や利用に向けての支援などを行っています。今後、事業の周知について広報等により積極的に情報発信していきます。</p>

No	ご意見（要旨）	市の考え方
4	<p>病児保育事業、子育て援助活動支援事業（病児・緊急対応強化事業）について</p> <p>岩城クリニックと阿南ファミリーサポートセンターでの実施が掲載されているが、阿南ファミリーサポートセンターでは病児・緊急対応強化事業は実施していない。</p>	<p>病児・緊急対応強化事業は、病児・病後児の預かりや病児・病後児保育を行う施設等の間の送迎などの相互援助活動を行う事業となっています。</p> <p>市が委託している阿南ファミリーサポートセンターでは、現在、当該事業として病児・病後児保育を行う施設への送迎を実施していますが、事業の必須項目である病児・病後児の預かりについては実施していないため、第2章－4－(2)－⑧における「病児・緊急対応強化事業」の表記について見直しを検討します。</p>
5	<p>乳児健診の充実について</p> <p>乳児健診は、4か月の集団検診後9か月まで空白の5か月間がある。乳児の著しい成長に伴い、保護者の育児不安や相談を受け入れる機会がない状態である。特に、初めての子育て中の母親にとっては心の安定を保つことがとても大切であることから、2か月から5か月までの初めての子を育児している母親のための講座（BP1プログラム）を開催することで、育児不安を解消し、虐待の予防にもつながる取り組みとして実施をお願いしたい。</p>	<p>保健センターでは、乳幼児健康診査として、4か月児健診、9か月児健診、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査を行っています。</p> <p>初めての赤ちゃんを育てている母親のためのBP1プログラムは、現在、「赤ちゃんがきた！実行委員会徳島南部」により実施していただいています。育児の知識やスキル、親の役割などを参加者同士が安心して話し合うなかで学ぶことができ、育児の不安解消、ストレスの軽減、子どもの虐待の予防にもつながることから、今後、実行委員会への協力を行いながら市の事業としての実施について検討していきます。</p>